



第45回「おかねの作文」コンクール

トランペット魂の導き

千葉県・浦安市立明海中学校 3年 石田 彩果

今まで買い物をする時、親に、
「こっちの方が安いけど、どっち買う？」
ときかれました、絶対に高い方を選んでいました。高い方が品も良いはずだし、
どうせお金を払うのは親だから……、という思いがあったからです。しかし、あること
をきっかけに、その考えはなくなりました。

中2の後半。吹奏楽部に入っていた私は、講師の先生からトランペットを借りて
いました。しかし、ちょうどソロコンテスト選考会の2週間前、そのトランペットを
返さなくてはなくなりました。やむをえず、学校の楽器で練習していましたが、
前のトランペットの方が合っており、自分らしい音も思うようにだせませんでした。
また、校内選考会を突破していた私には、自分のベストをコンテストで発揮しなければ
ならないという責任を、自分の中で持っていたので、ものすごい不安がありました。
そこで親に、

「自分に合ったトランペットを買ってほしい。」

と頼んだところ、

「どうせ高校まで続けないんでしょ。そんな短期間のために高額をかけるなんて、
もったいない。」

と言われてしまいました。しかし、どうしてもトランペットがほしかった私は、
「高3まで、誕生日プレゼントも、クリスマスプレゼントもいらないから!!」

と、自分で条件をつけ、頼みこみました。この条件には、さすがに両親も納得して
くれました。しかし、講師の先生にあとからきいたところ、36万以上のお金がか
かるというのです。20万円前後だと思っていた両親はとてもおどろき、また反対
してきました。コンテストまで日にちがわずかであせっていた私は、祖父母にも協力
してもらい説得し、やっとのことで完全な承認を親から得ることができました。

そしてついに、講師の先生、私、母は、日本一の金管専門店にやってきました。





ピカピカのトランペットに目移りしながらいくつかのものを吹いていましたが、講師の先生は、納得のいっていないような表情で見えていました。低い音は音程がバツグンだけど、高い音がでにくいもの、全体的にバランスは整っているが、何か物足りないもの……。これだ!!というトランペットがなかなか見つからず、悩みました。

その様子を見て、一人の店員さんが、おんぼろのトランペットをだしてきました。「こんなのあるんだけど……。吹いてみる?」それは、中古のトランペットでした。銀色というよりは、さびすぎて緑色になっていました。

「え……。中古?ピカピカの新品を買うつもりなんだけどな……。」

と心の中でつぶやきながら、とりあえず吹いてみました。

すると、今まで吹いてきた何十本のトランペットの中で、一番求めていた音がでたのです。ですが、正直、うれしいのかよくわかりませんでした。音はバツグンだけど見た目が……。ピカピカ 36 万円の新品を買ってもらえると思っていた私は、複雑な気持ちになりました。でも、講師の先生の

「新品はゼロから自分が上手に良い方向に育てていかなきゃいけないけど、中古は良いところを継続して、みがきをかければいから、成長させるのは中古の方が簡単だよ。特にこの中古は、昔吹いていた人が上手に育ててきていたから、とても良い楽器になっているね。」

ということばをきいて、中古への見方が変わりました。

「新品はいくらでもあるけど、こんなふうに育てあげられたトランペットは、世界にこれ1本しかないんだ。」

「私は何を目的に楽器を買いにきたのだろう。コレクション集めにきたわけじゃないのに、見た目や値段で判断してどうするんだ。」

そう反省した私は、心を入れかえ、このすばらしい中古を購入しました。

値段は結局、予定金額の9分の1の4万円でした。でも私は、36万円以上の価値のものを手に入れたと思っているし、中古を買ったことに、今でも全く悔いはありません。それどころか、

「こんな良い楽器が4万円で手に入って、ラッキーだな。」

と思っています。

『値段=ものの価値』という、私の勝手な定義の誤りを教えてくれた、講師の先生と、





歴代魂の入ったトランペットには、とても感謝しています。おそらく、このすばらしいトランペットとは、音楽を続けるかぎり一生、共に付き合っていくことと思います。

これからは、そのものがもっている価値を自分の力で見極め、値段に左右されずに選択ができる人になりたいと思っています。そうすることで、もっとお金の大切さを学び、稼いでくれている親に対して、感謝ができてあたりまえの、立派な人間になっていきたいと思っています。

